

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年8月12日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 136社
- 回収率 68.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より1.6ポイント悪化の▲19.8となった。

2017年9月以来96ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲19.2、当月と比べ0.6ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2025年9月～ 2025年11月
業況	▲15.5	▲14.2	▲17.3	▲11.7	▲18.2	▲19.8	▲19.2
売上	▲3.9	3.7	0.8	7.1	▲3.7	▲6.6	▲3.6
採算	▲17.8	▲15.7	▲18.8	▲11.0	▲16.1	▲20.6	▲19.8
仕入単価	▲64.3	▲70.2	▲56.4	▲56.3	▲58.4	▲52.9	▲53.7
販売単価	37.2	29.1	24.1	30.4	28.5	19.1	24.3
従業員	28.7	36.6	33.8	32.1	29.9	28.6	29.4
資金繰り	▲8.6	▲8.2	▲11.3	▲9.4	▲10.9	▲15.5	▲12.5

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2025年9月～ 2025年11月
建設	▲30.0	▲29.0	▲21.2	▲10.3	▲19.3	▲23.4	▲20.0
製造	▲9.4	▲16.7	▲24.2	▲10.0	▲23.4	▲19.3	▲22.6
卸売	▲14.3	0.0	▲7.4	▲7.4	▲15.7	▲15.4	▲23.1
小売	▲25.0	▲26.3	▲36.8	▲38.9	▲35.0	▲40.0	▲20.0
サービス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲6.9	▲10.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・住宅インフレは終息していない。年内に日銀の利上げ決定があると来年の新築住宅着工数は前年比減少が続き、住宅建築業界には厳しい状況が続く。ペロプスカイト太陽電池の敷設補助金を新設し、その補助申請を建築許可業者に限るなど対策をしないと、地場工務店は大打撃を受けるかもしれない。（総合工事） ・資材・人件費等仕入れ価格の上昇、売価上昇により顧客の設備投資が減少する。（設備・その他） ・前年度と比較すると売上高はプラス圏であるが、前年度が極端に業績が低調であったことから楽観視できない。また原材料費、外注費の増加により利益の増加率が売上の増加率を下回っており、他社との競合により販売価格への転嫁が容易ではない中、経費削減や生産性向上により収益性を高めることが課題である。（建築業）
製造業	・農作物の収穫が進んでいるが、6月下旬からの暑さの影響で品質の低下等がでている。主力商品の収穫は全体の2割程度でこれから本格的になる。人員不足も続いているが、あらゆる手段で人員確保を務めたい。（食料品） ・業界として秋以降の見通しが有るところと無いところの二極化。（金属窯業他） ・食品関係の物価高の影響で木製小物・家具関係の販売の動きが悪い。（家具・木材）
卸売業	・長引く猛暑の影響で消費が低迷した。（繊維・衣服等） ・当月の業況は前年同期に比べやや微減に推移。例年この時期は閉鎖期であることから、ここ3年程度の売上をみると最も低い。しかしながら、年後半に向けて実需や予約販売が伸びることもあり、特段の懸念はない。（その他） ・景気の上昇が予想に反して天候の要因からむしろ悪化に転じて家計にマイナスの影響を与えてしまった。そのため必需品でない我々には大きなダメージが続く。又、その他の災害が産地に及ぼせば供給面でもマイナス要因が出てくる。（その他）
小売業	・8月に入り気温が下がらず30℃以上連日暑さが続き、夏物商品(セール用)も終わり、秋物商品も少しずつ店頭には並んできたが、季節が夏のためまったく動きはない。又、来店客数も一番少ない時期で売上が厳しい。（衣服身回品） ・売上は前年同月比で増加。今年は猛暑により冷たいドリンクの需要が伸びたことに加え、新規顧客の来店も増加。気温が落ち着けば地元客中心に客足がさらに見込まれる。一方で原材料費（コーヒー豆や乳製品）の高騰が依然として続いており、利益率は改善していない。（食料品） ・8月は例年夏季休暇により営業日数が通常月より少なく売上が伸びづらい時期でもあり、販売の苦戦が予想される。人件費の高騰により営業費は前年より上がっているため、設備投資も行いたいのが今後の売上の状況を見て判断していく。（自動車） ・ガソリンの暫定率廃止に向けた動きを注視している。コスト上昇分を適正に転嫁しきれていない。（その他）
サービス業	・8月に関しては昨年とほぼ売上は変わらずだが、仕入れコストが想定を上回る。今後最低賃金も上がるので、いよいよ販売単価を上げざるを得ない。（理美容・クリーニング） ・エネルギーコストや資材の高騰。（ホテル・旅館） ・顧客である観光業の稼働率が、繁忙期にもかかわらず想定より下振れしているため、弊社の売上も前年同期比割れとなっている。この傾向は北海道観光の繁忙期中継続すると想定している。（その他） ・建設資材や人件費の高騰により、特に民間工事では仕事量が減少傾向にある。今後もこの傾向が続くと見込まれ、業況は一層厳しさを増すことが予想される。（その他） ・原材料・労務費等の上昇のため悪化。（飲食） ・8月はお盆休みの長期化、昨年より土曜日休日の増加（1日）などで月の稼働率が減少している。値上げを毎年行っているが、仕入れ価格・賃金の上昇、稼働日減少分まではカバーできていない。今後も休日が増加していくので更なる値上げが必要。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI7.1 ポイント悪化、採算 DI10.7 ポイント悪化、仕入単価 DI4.4 ポイント改善、販売単価 DI15.7 ポイント悪化、資金 DI7.1 ポイント悪化、従業員 DI11.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.1 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他 8 ポイント改善、総合工事 7 ポイント、建築業 14 ポイント悪化となった。モデル住宅が売れ、精算が終了したため利益となった。木材、建材は安定しているが、窓、住設が少し価格上昇にあるため、見積もりも少し上げざるをえない状態ではあるとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI13.1 ポイント悪化、採算 DI0.6 ポイント改善、仕入単価 DI7.8 ポイント改善、販売単価 DI7.2 ポイント悪化、資金 DI0.4 ポイント改善、従業員 DI2.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版 20 ポイント、家具・木材 11 ポイント悪化、金属窯業他横ばい、食料品 45 ポイント改善となった。昨年は SNS でのバズりや T V 番組での特集などで売上が好調だったが、商品の特性上、酷暑による売上減は否めないとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI1.6 ポイント改善、採算 DI6.0 ポイント悪化、仕入単価 DI8.7 ポイント改善、販売単価 DI6.0 ポイント悪化、資金 DI4.8 ポイント改善、従業員 DI3.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 21 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 3 ポイント、機械鋼材 29 ポイント改善となった。前年度と同等か若干良いくらいの業況であるとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI15.0 ポイント改善、採算 DI5.0 ポイント改善、仕入単価 DI15.0 ポイント改善、販売単価 DI20.0 ポイント悪化、資金 DI5.0 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.0 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 14 ポイント、自動車 13 ポイント悪化となった。8 月は少しずつ動きが出てきているが、春先の不調分がカバーできていない状態である。又、部品の価格上昇により販売価格に転嫁できていない状況でもあるとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI10.6 ポイント悪化、採算 DI9.7 ポイント悪化、仕入単価 DI5.7 ポイント悪化、販売単価 DI2.6 ポイント改善、資金 DI17.3 ポイント悪化、従業員 DI18.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.9 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 17 ポイント、ホテル・旅館 2 ポイント、整備業 25 ポイント改善、その他横ばい、飲食 33 ポイント、運送 53 ポイント悪化となった。労務費等のコスト増や価格転嫁との声も寄せられている。